

鈴木出版(株)編集長

波賀 稔
はが みのる



「図書館は苦手!...だった」

私が育った山間の寒村では、子どもは、近くに図書館がありませんでした。初めて図書館らしきものに触れたのは小学校の1年生。学校の図書室でした。しかし、図書室の利用手続きがなかなか覚えられず、うまく利用することができませんでした。何かの拍子に本を借りたものの、返却の仕方が分からず、そのままにしていたら督促を受け、結局、兄に返してもらったことがあります。それがトラウマとなって、図書室で本を借りることはありませんでした。

高校生のときは奨学金の貸与を受けていたので、毎

月奨学金を受け取った日は書店に行き、気に入った本を買おうになりました。自分の本なら返す必要がありません。図書館の、あの複雑な(?)手続きが無用です。本来なら、学費の足しにしなければならぬ奨学金を書籍代にしてみました。

かように、図書館が苦手だったのですが、児童書の編集という仕事についていると、どんな作家がどんな作品を書いているか、どんな画家がどんな絵を描いているか、同じような内容のものはないか、いろいろな本を調べなければなりません。その作品の背景などを

知るために、複数の資料にあたる必要もあります。そんな資料本をすべて買いそろえるわけにもいきません。どうしても図書館を利用せざるを得ません。

先日、調べ物をするために図書館に行ったものの、どの棚を調べてよいか見当がつかず、レファレンスサービスをお願いしました。すると、想定外のもので教えていただき、とても広がりがありました。かつて、百科事典で調べていると、関連項目が記載されていて、それを調べるとまた関連項目。手に負えなくなると、元に戻るといってしまいましたが、先日のレファレンスがまさにそんな感じでした。しかし、それはいい感じで広がり、いいところで収束します。生きた図書館を感じました。これからは、借りることは少ないでしょうが、利用はするつもりです。



TOSHIMA
International City
of Arts & Culture

と し ょ か ん つ う し ん 図 書 館 通 信

館 通 信

第 42 号
季刊 (秋)
2016

トピックス

- 巻頭言 鈴木出版株式会社取締役編集長 波賀 稔 . . . 1 ページ
- 古い本、新しい話 尾崎 真理子 . . . 1 ページ
- 図書館と私 豊島区立池袋図書館奉仕員(司書) . . . 2 ページ
- 生涯の一幕 豊島区副区長 宿本 尚吾 . . . 2 ページ
- この本カフェ . . . 2 ページ
- 豊島区とミステリー 文芸評論家 権田 萬治 . . . 3 ページ
- 女性にやさしいまちとしま . . . 3 ページ
- 図書館イベント情報・図書館開館情報 . . . 4 ページ

発行 ● 豊島区立中央図書館
東京都豊島区東池袋四一五二一
ライズアリーナビル四階・五階 〒170-8441
電話 ● 03-3983-7861
FAX ● 03-3983-9904
ホームページ ● <http://www.library.toshima.tokyo.jp/>
発行日 ● 平成28年10月



新航路【40】

広がる「賢治の世界」

今年、宮沢賢治生誕120周年の年です。詩、童話、音楽、農業、鉱物、天文学、宗教…、宮沢賢治には引出しがたくさんあります。こうして羅列するとバラバラに切取られた印象がありますが、生誕100周年の年に訪れた花巻で、羅須地人協会(現在の花巻農業高校内)、宮沢賢治記念館、イーハトーブ館、供養地のある身照寺などを巡り、賢治祭で鹿踊りを観たときには不思議なことに自分の中で「賢治の世界」が統合されていきました。

「旅行はちょっと…」という方には、区内の上池袋さくら公園(上池袋図書館前)にある梶の像をご紹介します。台

座には賢治の童話「二十六夜」に登場する梶の僧が説法する「疾翔大力」が刻まれ「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はありえない」と記されています。「市の鳥」に梶を定めている岩手県花巻市から寄贈されたものです。

また、11月19日(土)午後2時~あうるすぽっと会議室で宮川健郎先生による「宮沢賢治、明日を開くことば」の講演会を開催します。第二部では東京音楽大学の学生さんによるチェロの演奏があり、宮沢賢治作詞作曲の「星めぐりの歌」も演奏していただきます。どうぞ、賢治の世界をお楽しみください。

古い本、新しい話 9

『苦海浄土』を後世に伝える

尾崎 真理子

石牟礼道子著『苦海浄土』全三部を一冊にまとめた完全版が、藤原書店から刊行された。六センチの厚み、黒いカバーはどことなく聖書を連想する。実際、戦後の文学の中でもとりわけ壮大な、聖なる作品と言えるだろう。

△魚は天のこれらすもんでござす。天のくれらすもんを、ただで、わが要ると思うしことって、その日を暮らす。これより上の栄華のどこにゆけばあるうかい▽

古来、豊かな海と暮らしてきた漁民たちを奈落の底に突き落とした、熊本県水俣湾の水銀汚染。高度成長期に発生した水俣病の悲惨を世界に広めた本作は、やがて△チツソの人の心も救われん限り、我々も救われん▽との境地に至る水俣や天草の人々の気高い魂を、「浄瑠璃のように」(著者)うたう、叙事詩のような長編である。

第一部「苦海浄土」が1969年に講談社から出版された当初は、現地に暮らす無名の詩人によるルポルタージュといった体裁の単行本とされていた。第一回大宅壮一ノンフィクション賞に選出されるが、著者は受賞を辞退している。第二部より先に、第三部「天の魚」が発表されたのは74年。チツソ側と患者達の座り込み現場での一問一答や、国への陳情書などが多数引用され、記録としての価値も高いが、抒情的な膨らみもそれに勝るほど強まる。そして「人間とは」をより深くと問う第二部「神々の村」が完成したのは30年後の2004年。「石牟礼道子全集・不知火」(全17巻、藤原書店)の一冊として刊行された。

すでに河出書房新社の「池澤夏樹個人編集・世界文学全集」に三部作ごと収録され、話題になった。今回の藤原書店の完全版には、水俣病と共に歩んだ医師の原田正純、作家・渡辺京二、生命科学者・中村桂子氏ら7人の解説も収録。作品の意義をいねいに補強している。

そして何より、編集者の魂がこもっている。読みやすく開きやすい上製の本が四二〇〇円。儲けはないだろう。比類ない文化遺産をどうしたら後世へ手渡せるか。考え尽くされたに違いない。入魂の一冊に圧倒された。(読売新聞編集委員)

一九五三年、山口県生まれ。「にゃーび」「たまごにゃん」『おっはい』などをはじめ、三十年以上絵本や児童書の編集にかかわりながら、保育園、小学校、寺院、書店などで読み聞かせの実践活動も行っている。絵本専門士。

生涯の一冊

(41)



■『ストラクチャード
ファイナンス入門』

大垣尚司／著
日本経済新聞社
1997年



豊島区副区長
やどもと しょうご
宿本 尚吾

平成5年旧建設省入省。国土交通省住宅局住宅ストック活用・リフォーム推進官などを経て、平成28年4月より現職。

私の性格なのか、仕事柄なのか、仕事に関する本を読む機会は多いのですが、「生涯の一冊」となり、ピンと来ないのが正直なところ。ただ、公務員人生のターニングポイントで記憶に残っている一冊がありますので、それを紹介することでご容赦いただきたいと思います。

それは、「ストラクチャード・ファイナンス入門(大垣尚司、日本経済新聞社)」という本です。まだ、金融規制が厳しかった時代の話になります。金融自由化の一環として、旧建設省で「住宅ローンの証券化」の仕組みを創ることになりました。金融という

「ターニングポイントの一冊」

分野は、それまでの旧建設省の仕事とも全く異なるものでしたが、「金融工学」と言うのだから、高校で微積分を学んだ技官であれば多少は理解できるだろう」と言われ、この本で勉強しました。

大垣氏の著書は全てそうなのですが、事例含め、分かりやすい説明がなされており、初心者であっても根気さえあれば、理解できる内容となっています。もちろん、この本だけでなく、金融業界の様々な方々の協力もあり、現在では金融自由化の中、住宅ローンの証券化市場は大きく成長しています。私自身も前例のない仕事を実現させるプロセスを経験し、自信がいった公務員人生のターニングポイントであったと思います。

なお、残念ながらこうした経緯ですので、「生涯

の一冊」と言っても、現在読み返すことはありません。

現在、仕事の進め方や発想の方法について、参考にしていく本は別にあり、今後、「生涯の一冊」となるかもしれないので、これもご紹介しておきます。それは、「ヤバい経済学」「超ヤバい経済学」「ヤバすぎる経済学」(いずれもS・D・レヴィット、S・J・ダブナー共著、望月衛翻訳、東洋経済新報社)です。「経済学」と称しているのですが、王道の経済学ではなく、日常の疑問についてデータをを用いて分析し、極めて現実を直視した課題解決の方法を提示するという本です。公務員以外の方に役立つかは不明ですが、公務員の方には、新しい行政アプローチの方法として、お薦めしたい一冊(三冊?)です。



図書館と私 29 池袋図書館図書館奉仕員(司書)

(ああ、今日もいる)

都内でも有数の混雑した通勤電車で、彼を見分けることができるのはなぜか。こたえは単純、「本」だ。いつでも本を読んでいる。スマホ全盛のご時勢に、いったい何人が本をひろげているのだろう、一両の電車に。かく言うわたしも、その少数派の一人、だから、本を読んでいる人を見かけるとうれしくなる。ちょっとした仲間意識に近い。剣豪の果し合いに息を呑み、愛し合う二人の今生の別れに涙がこぼれる。気の利いたジョークに肩をふるわせて笑いをこらえ、極上のミステリーのトリックに満足のため息。殺伐とした電車の車内でもわたしには楽しめる本がある。なんて幸せなんだろう。

彼が手にしているのは、本屋さんのカバーがかかっている本のときもあるが、たいていは図書館の本だ。ドアの右側に立っているから、バーコードラベルがよく見える。図書館の蔵書に貼るバーコードラベルは、本の背を左側に置いたときの左下だ。そこに情報や人物の顔がある場合は別だが。たまにあるのだ、図書館員泣かせ

の本が。これでもか、というほど表紙や裏表紙を問わず情報を盛り込み、写真を詰め込んでいる。そんなときは、ラベルを貼る位置に気を使う。

(あ、あの本!) 今日持っているのは、先日の選書で検討した本だ。

「今週は、小説少ないですね」「もう少し小説買いたいです。でもこの著者の本、区内に所蔵していないし、未知数ですよ」「抄録読むと、この近所が舞台みたいですよ。ために購入してみましょうか」そんな検討の末購入した本だ。よかった、さっそく貸し出されている。おもしろいらしい、集中して読んでくれている。

(あ、気付かれちゃった?) わたしの手にしている本を見てにこっとする。わたしも、(楽しんでくださいね)の思いをこめて会釈をかえす。

なんてことが、あったりしてね……そんな想像をしながら、わたしは今日も、図書館への道を歩いている。

Café KONOHON この本カフェ

8
杯目

トキワ荘のマンガ

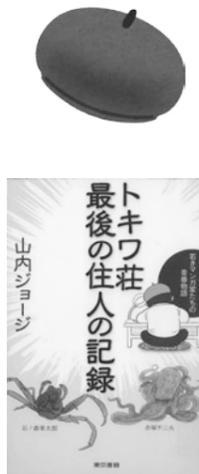
2020年、マンガの聖地「トキワ荘」が復元・公開されることが決まりました。トキワ荘は、手塚治虫、石ノ森章太郎、赤塚不二夫らのちの大作作家たちが出入りし、創作した場所です。そこでの人間模様は小説にもマンガにもなっています。マンガ作品を楽しむもよし、トキワ荘の物語を味わうもよし。クールジャパンのアニメを生み出す現場となった豊島区椎名町・南長崎は、今や日本のマンガ文化の聖地です。

今回のテーマ

書名『トキワ荘 最後の住人の記録 若きマンガ家たちの青春物語』

山内ジョージ／著 東京書籍 2011年

「さあ、行こう!」。石ノ森章太郎のひと声で原稿をほっぽり出し、石ノ森、アシスタントの長田、著者の3人はトキワ荘を飛び出した。締め切りに追われてもなんのそので、駆け足で映画館へ。映画は、漫画の構成や表現の参考になる。食費を削っても、漫画家たちは音楽、芝居、映画をかむしゃらに詰め込んでいたようだ。トキワ荘では、締め切りに間に合わなくなると編集者らもみな協力して作品を仕上げたという。石ノ森が転居して3ヶ月後、石ノ森と赤塚の制作を手伝ってきた著者もトキワ荘をあとにし、そこにはもう誰もいなかった。石ノ森の婚約話や赤塚のギャグ「シェー」の誕生など、知られざる話が満載の回想録。 【酒井 一夫(さかい かずお)】



書名『これでいいのだー赤塚不二夫自叙伝』

赤塚不二夫／著 文春文庫 2008年

赤塚不二夫は、『天才バカボン』など数々のヒット作を世に送り、水木しげるや手塚治虫らと共に昭和を代表する漫画家のひとりである。本書のサブタイトルには自叙伝とあるが、壮絶な苦労を重ねながら戦中～戦後と自分を懸命に育ててくれた両親への感謝が綴られている。「自分が今ここにいるのは二人がいたから」という思いと辛い戦争の記憶を、赤塚は自叙伝という形で表現した。「家族愛溢れる昭和」がここにある。 【古清水 厚(こしみず あつし)】



書名『ジャングル大帝 手塚治虫文庫全集』

手塚治虫／著 講談社 2009年

コマを追いつつ文字を読み、絵を見るマンガ。これを読むのはホントに疲れる。文字だけあれば充分で、「あとは想像させてください」と思ってしまう。私はかつて、左右の目の色が違うオッドアイの白猫を飼っていた。名前は「令央(レオ)」(享年15歳)。その名のついた作品を読んでみると、そこには驚愕の世界が待っていた!! 妻のために命を落とす。ライオンがパンツを穿く。動物が人間の言葉を喋る。作品が表現するのは、繰り返される歴史の寓話。コマのひとつひとつからいろいろな過去と未来を想像できるのが、手塚作品の魅力だ。 【砂塚 寛子(すなづか ひろこ)】



※手塚治虫の「塚」は、正しくは点があります。石ノ森章太郎の「ノ」は、正しくは小文字です。

寄稿者はとしまコミュニティ大学の学習者の内、登録して学んでいる「マナビト生」です。人類学者佐藤壯広氏のご指導をいただきながら、毎回テーマに合わせて文学、児童書、評論や科学などの分野からお薦め本を1冊紹介しています。

豊島区とミステリー

全4回

第二回

評論・研究者としても傑出していた乱歩

二〇〇六年六月に誕生した立教大学の江戸川乱歩記念大衆文化研究センターが十周年を迎えた。名称からうかがえるように同センターは二〇〇二年二月同大が隣接する旧江戸川乱歩邸を乱歩の蔵書資料、自筆原稿、書簡などとともに譲り受け、これを大衆文化研究の拠点として設立されたものである。

大衆文化研究センターとしては、アメリカのオハイオ州立ボリング・グリーン大学に一九六八年に設置されたものが有名で、季刊の機関誌「大衆文化」(Popular Culture)を発行していたほか、出版局のPopular Pressからミステリー、SF、ホラー関係の研究書を数多く刊行していた。また、研究分野もミステリーなどだけでなく、映画やポピュラー・ミュージックなど幅広いジャンルの資料収集を行っており、その成果は、現在も同大学のプラウン・大衆文化図書館に残されている。しかし、その後の活動は同大学のホームページなどでも明らかでない。そついで、立教大学の大衆文化研究センターが創立十周年を迎え、乱歩邸の学術調査員として落合教幸研究員を置くこと



機関誌「大衆文化」(※)

もに、横断的な研究成果を掲げる機関誌「大衆文化」も十五号を数えるまでになったことは、注目に値する。

さて、乱歩は、初期の「二銭銅貨」、「心理試験」、「屋根裏の散歩者」、「人間椅子」、「人だなしの恋」、「押絵と旅する男」など優れた短編や『パノラマ島奇談』、『陰獣』など上質の中・長編を書いた後、『孤島の鬼』、『蜘蛛男』、『黄金仮面』などの通俗長編を相次いで執筆して絶大な人気を集め、また、少年・少女向けの『怪人二十面相』シリーズなどで多くの若者の心を捉えた。

しかし、太平洋戦争中は、探偵小説は英米のアングロサクソンの文学につながることで、軍部から「敵性文学」扱いされ、乱歩も事実上執筆ができなくなった。

だが、乱歩の探偵小説への情熱は少しも衰えることはなく、名古屋在住のミステリー評論家の井上良夫と海外のミステリーについて、頻りに長文の手紙のやり取りをしていた。終戦直前の昭和十八年には乱歩側の手紙だけで原稿用紙換算で三百枚も出していたと『探偵小説四十年』で語っている。こうして長い間の研究と思索の成果が戦後、『幻影城』や『続・幻影城』、『海外探偵小説作家と作品』などの評論集に見事に結実したわけである。

そして、こうして素晴らしい研究・評論の背後には、同センターの旧乱歩邸を訪れた人が自分の目でその一端を垣間見ることができる膨大な内外の資料があったのである。

新保博久・山前讓共編の『幻影の蔵 江戸川乱歩探偵小説蔵書目録』(二〇〇二年)は、乱歩邸が公開される前に十年の歳月をかけてまとめられた労作だが、この中で、山前讓は作家から評論家、研究者に変貌を遂げた戦後の乱歩について次のように指摘している。

「やはり、戦後の乱歩は評論家であり、研究者であった」、「『探偵小説四十年』の一枚の写真が印象的である。昭和三十年の



『探偵小説四十年 覆刻』(沖積舎)に掲載された写真(※2)

項にある仕事部屋での乱歩を撮ったものだ。戦争中から土蔵では仕事をしていた。なかつた。

土蔵の手前にある部屋が仕事部屋になったのだが、周囲の書棚は参考書や事典などの資料で一杯である。奥には今も残る写真整理用の引き出しが見える。これは作家の仕事場ではなく、研究者の仕事場である」

このように、膨大な資料を基に長い時間をかけて独自の考えをまとめた評論だけに、『幻影城』の「類別トリック集成」などは、ミステリーに関心を持つ者にとって、今も必読の文献であり、不朽の名著となっている。

大衆文化研究センターのセンター長である中村秀之(現代心理学部教授)は十周年に当たり、将来構想として「対象も乱歩や近現代のみにとどまらず、時代とジャンルを超えた幅広い大衆文化研究に結実させていくことが要請される」と語っているが、旧乱歩邸を拠点とする同センターはこれからも「乱歩博物館」的な魅力を大いに発揮してくれるに違いない。



土蔵(内観)(※)

権田萬治(ごんだまんじ)

文芸評論家。元専修大学文学部教授、前ミステリー文学資料館館長。推理作家協会賞を受賞した『日本探偵作家論』ほか著書多数。近著に『謎と恐怖の楽園で ミステリー批評55年』がある。

写真提供：(※)立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター (※2)平井憲太郎氏

女性にやさしいまち としま

豊島区は23区で唯一「消滅可能性都市」と発表されたのを受け、女性たちの声を区政に反映し、もっと素敵な豊島にしようと平成26年6月、「としまF1会議」を立ち上げ、具体的な施策案を検討してきました。その記録として座長を務めた立教大学社会学部 21世紀社会デザイン研究科の萩原なつ子教授の編・著『としまF1会議～消滅可能性都市270日の挑戦』(生産性出版 2016年)が発売されました。



宮田麻子課長

また、今年4月豊島区は、「女性にやさしいまちづくり」を戦略的に推進し、ブランドイメージとして定着化を図るため、女性にやさしいまちづくり担当課長として宮田麻子課長を民間から登用しました。課長は、「これまでの広報・マーケティングの経験を地元である豊島区や人々の暮らしに役立てたい。働く女性、子育て世代の暮らしや働き

方など多角的な施策を展開・発信していきたい。」と語っています。

女性をキーワードとした施策の最初の取組として、ツクモル by Toshimaというプロジェクトが始動しました。プロジェクトのコンセプトは、わたしの「つくる」が、あなたを「まもる」。その第一弾として8月23日(火)に、「親子で参加!防災ワークショップ(以下WS)～」を開催しました。WSは、女性クリエイターの皆さんと女性やこどもの目線に立った防災グッズを制作して、防災をより身近なものにしていこうというもの。当日は、身につけたくなるような防災お守り袋作りと防災ミニ講座が行われました。



防災お守り袋

近年自然災害が続く日本列島。防災意識にも女性の視線が重要というのは鉄則です。雑誌オレンジページ9月号でも、女性目線の防災グッズ特集が組まれました。

そして、豊島区の次のキーワードは「イクボス」です。女性・男性関係なく子育て世代を理解するボス(経営者や上司)がいてくれたら心強いですね。9月29日(木)、区長をはじめ、区内企業・団体トップが一堂に会い、イクボス宣言をしました。

図書館イベント情報

★…児童・あかちゃん向け ●…大人向け

毎週、本の読み聞かせなどのイベントを行っています。遊びに来てくださいね。

各図書館の
連絡先

- 中央図書館 3983-7861
- 池袋図書館 3985-7981
- 駒込図書館 3940-5751
- 目白図書館 3950-7121
- 巣鴨図書館 3910-3608
- 千早図書館 3955-8361
- 上池袋図書館 3940-1779
- 雑司が谷図書貸出コーナー 3590-1335

主催/会場	おはなし会開催日		スペシャルイベント		
	幼児・小学生	あかちゃん	10月	11月	12月
中央図書館 児童コーナー (※印は会議室)	日曜日 午後2時	最終日曜日 午前11時 (12月は11日)	★2日・おはなしこうさく会 午後2時 ★23日・文字活字文化の日スペシャル 午後2時 絵本の読み聞かせなど	★6日・おはなしこうさく会 午後2時 ★19日・豊島岡女子学園 読み聞かせボランティア おはなし会 午後2時 ★27日・ボランティアによるおはなし会(虹のポケット) 午後2時	★11日・0・1・2 冬のスペシャルおはなし会 午後2時※ ★18日・冬のスペシャルおはなし会 午後2時※ 絵本の読み聞かせなど
駒込図書館 (地域文化創造館)	土曜日 午後3時	第1水曜日 午前11時	★22日・おはなしのはこ 文字活字文化の日スペシャル 午後3時 スライドの上映、絵本の読み聞かせなど ★27~29日・ぬいぐるみお泊り会(要申込)10/15~)	●19日・イクメンパパのための読み聞かせ講座 午後1時30分~2時30分(要申込)11/1~)	★17日・おはなしのはこ クリスマススペシャル 午後3時 絵本の読み聞かせ、手遊びなど
巣鴨図書館 地下会議室	水曜日 午後3時30分	第3火曜日 午前11時	★5日・ほんのじかんこうさくかい 午後3時30分 ★19日・ほんのじかん 文字活字文化の日スペシャル 午後3時30分 絵本・紙芝居の読み聞かせ、手遊びなど	★9日・ほんのじかん スライド 午後3時30分	★20日・おはなしびよびよ 冬のお楽しみスペシャル 午前11時 ★21日・ほんのじかん 冬のお楽しみスペシャル 午後3時30分 絵本・紙芝居の読み聞かせ、手遊びなど
上池袋図書館 おはなしのへや (※印は地下ホール)	水曜日 午後3時	最終水曜日 午前11時※	★10~16日・鉄道版 図書館タンテイ・ミニ 午前10時~午後4時30分 ●15日・鉄道フェスティバル映画会 午前10時~12時※	●13日・イクメンパパのための読み聞かせ講座 午前10時30分~12時※(要申込)10/1~) 参加者のための託児を若干名受け付けます。	★21日・さくらんぼおはなし会 クリスマススペシャル 午後3時 絵本の読み聞かせ、手遊びなど
池袋図書館 ワークルーム (※印は池袋第三 区民集会室)	土曜日 午後2時30分 (12/31お休み)	第1水曜日 午前11時	★15日・おはなしたんぼぼ 文字活字文化の日スペシャル 午後2時30分 絵本・紙芝居の読み聞かせなど ★22日・たんぼぼえいがかい 午後2時30分 「こぎつねのおくりもの」(30分)	★3日・作ってみよう、ポップアップカード (対象:中学生以上) 午後2時~4時 ★26日・たんぼぼえいがかい 午後2時30分 「かさこ地ぞう」(13分)	★24日・たんぼぼクリスマスかい 午後2時30分 絵本・ビッグブックの読み聞かせ、パネルシアターなど
目白図書館 地下区民集会室	水曜日 午後3時	第1水曜日 午後2時	★26日・あいうえおはなしかい 文字活字文化の日スペシャル 午後3時 絵本・紙芝居の読み聞かせなど	★30日・かきくけこうさくかい 午後3時	★14日・あいうえおはなしかい クリスマススペシャルおはなしかい 午後3時 絵本・紙芝居の読み聞かせなど
千早図書館 視聴覚室	水曜日 午後3時30分	水曜日 午前10時30分	★12日・ほんとおはなしかい 文字活字文化の日スペシャル 午後3時30分 絵本・紙芝居の読み聞かせなど ●30~31日・大人の社会科見学 図書館バックヤードツアー(要申込)10/1~)	★9日・ほんとおはなしかい 午後3時30分	★14日・ほんとおはなしかい スペシャルクリスマス会 午後3時30分 絵本・紙芝居の読み聞かせなど

日程・会場等が変更になることがあります。事前にお問合せください。

10月27日は文字・活字文化の日 ~図書館おはなし会のご案内~

知的で心豊かな国民生活及び活力ある社会の実現を目指して、平成17年7月に文字・活字文化振興法が制定されました。それに伴い、10月27日を「文字・活字文化の日」と定め、文字・活字文化についての関心と理解を広く深めるための様々な取組みが行なわれています。区内各図書館では、子ども達に向けてスペシャルおはなし会を行ないます。詳細は各図書館へお問い合わせください。

『目白とトキワ荘とマンガ家 ~いまさら聞けない、トキワ荘あれこれ~』

豊島区が誇るマンガの聖地トキワ荘のお話。作家の実像、目白地域との関わり、関連オススメ作品等、貴重な話が飛び出します。

- 日時 平成28年11月13日(日) 午後2時~(90分)
- 会場 目白第一区民集会室(目白図書館地下)
- 講師 吉田 孝氏(トキワ荘のマンガに造詣の深い方)
- 定員 30名(10月11日より受付) 無料
- 申込 電話または目白図書館カウンターにて受付
- 電話 目白図書館 3950-7121

特別講演会 「宮沢賢治、明日を開くことば」

- ☆第一部☆講演会(1時間30分)
- ☆第二部☆チェロアンサンブルコンサート(30分)

今年生誕120年の宮沢賢治の最大の魅力である想像力について、講師にお話しいただきます。第二部は東京音楽大学の学生によるチェロコンサートをお楽しみください。



- 講師 宮川 健郎(みやかわ たけお)氏
(武蔵野大学文学部教授、児童文学研究者)
- 日時 平成28年11月19日(土) 午後2時~4時
- 会場 あうるすぽっと会議室B
- 定員 先着100名(10月11日午前10時より受付)無料
- その他 手話通訳あり、保育あり(先着5名まで)

地域研究ゼミナール 「池袋モンパルナス ~芸術家たちが生きた街~」(全2回)

池袋モンパルナスで活躍した画家の生き様やアトリ工村周辺の様子などを芸術家たちと身近に接していた方々にお話ししていただき、生活者の視点から日長崎地域を検証していきます。

- 第1回 「映像で復活する池袋モンパルナス」
- 第2回 「アトリエとまちの暮らし」

- 日時 11月26日(土)、12月3日(土) 午後2時~4時
- 会場 あうるすぽっと会議室B
- 定員 先着60名(10月21日午前10時より受付)
- 参加費 500円(初回にいただきます)

特別講演会・地域ゼミナール

- 申込 電話・FAX・メール・直接来館
- 問い合わせ 中央図書館企画調整グループ
- ☎3983-7861、FAX 3983-9904
- メール A0027900@city.toshima.lg.jp

豊島区立図書館の開館日及び開館時間

館名	開館日及び時間	休館日	10月~12月の休館日
中央図書館	平日 午前10時~午後10時 土日祝日 午前10時~午後6時	第2月曜日 第4金曜日 12月29日~1月4日	10月10日・28日/11月14日・25日 12月12日・23日・29日~1月4日
駒込図書館	平日 午前9時~午後8時 土日祝日 午前9時~午後6時 ※平日は、午前8時から資料の返却と、予約資料の受取ができます。	第1火曜日 第4金曜日 12月29日~1月4日	10月4日・28日 11月1日・25日 12月6日・23日・29日~1月4日
上池袋図書館	平日 午前9時~午後8時 土日祝日 午前9時~午後6時	第1火曜日 第4金曜日 12月29日~1月4日	
巣鴨図書館		第1月曜日 第4金曜日 12月29日~1月4日	10月3日・28日/11月7日・25日 12月5日・23日・29日~1月4日
池袋図書館	平日 午前9時~午後7時	毎週月曜日 第4金曜日 12月29日~1月4日	10月3日・10日・17日・24日・28日・31日 11月7日・14日・21日・25日・28日 12月5日・12日・19日・23日・26日・29日~1月4日
目白図書館	平日 午前9時~午後6時		
千早図書館		毎週火曜日 第4金曜日 12月29日~1月4日	10月4日・11日・18日・25日・28日 11月1日・8日・15日・22日・25日・29日 12月6日・13日・20日・23日・27日・29日~1月4日
雑司が谷図書貸出 コーナー	平日 午前10時~午後7時 土日祝日 午前10時~午後5時	第2月曜日 最終月曜日 第4金曜日 12月29日~1月4日	10月10日・28日・31日 11月14日・25日・28日 12月12日・23日・26日・29日~1月4日

※都合により変更になる場合があります。

編集後記

読者の方から訂正のご指摘をいただきました。お詫び申し上げますとともに、細かいところまで読んでいただいているようで、ありがたい気持ちになりました。(高松)

お詫びと訂正

40号1頁「古い本、新しい話7」と41号4頁「巣鴨キネマ」で以下の誤りがありました。お詫びして訂正いたします。
40号 正 『楽しい終末』 誤 『楽しい週末』
41号 正 三浦友和 誤 三浦友一

千早図書館友の会主催 「千早進歩自由夢月例会」

◆10月例会 演奏会「バイオリンとチェロの世界」

- 日時 平成28年10月29日(土)
午後2時~4時(開場:1時30分)
- 演奏 佐藤 美代子氏、三好 明子氏、大石 修氏
- 曲目 貴志康一「月」、ヴィオッティ「弦楽三重奏曲」他
- 定員 50名(先着順) ※小学生以上

◆11月例会 落語会

- 日時 平成28年11月19日(土)
午前10時~12時(開場:9時30分)
- 出演 三遊亭 窓輝 師匠
- 内容 毎年恒例の落語会(第6回)
- 定員 50名(先着順)

◆12月例会 講演会「戦時下を生きて」

- 日時 平成28年12月3日(土)
午後2時~4時(開場:1時30分)
- 朗読 「グループ風の交叉点」のメンバー
- 内容 女性史「風の交叉点」1・2集より、戦時下を生きぬいた女性たちについて語る
- 定員 50名(先着順)

- 会場 千早図書館 2階 視聴覚室
- 問い合わせ 千早図書館友の会
千早図書館 ☎3955-8361